

6

腸内細菌検査

1 概 要

1] 目 的

食中毒発生の未然防止を目的として、赤痢菌、サルモネラ属菌、腸管出血性大腸菌（O157・O26・O111・O128）の保菌者検索を行った。

2] 対 象

対象者は、食品取扱者、集団生活者（幼児・施設入所者）、学校給食従事者等

3] 検査方法

(1) 赤痢菌検査

検体はキャリーブリア輸送培地に採取し、分離培養はSS培地を使用した。

確認培養は、TSI培地・LIM培地・酢酸塩培地・シモンズのクエン酸塩培地・VP培地を使用し、生化学的性状を確認した。

(2) サルモネラ属菌検査

検体はキャリーブリア輸送培地に採取し、分離培養はSS培地を使用した。

確認培養は、TSI培地・LIM培地・クロモアガーサルモネラ培地・シモンズのクエン酸塩培地・VP培地を使用し、生化学的性状を確認した。

生化学的性状の一致したものはサルモネラ免疫血清を用い、O抗原の同定検査を実施した。

(3) 腸管出血性大腸菌検査

検体は、赤痢菌・サルモネラ属菌同様のキャリーブリア輸送培地に採取し、分離培養はCT-SMAC培地またはViEHEC培地を使用した。

確認培養は、TSI培地・LIM培地・CLIG培地・クロモアガーO157培地・シモンズのクエン酸塩培地・VP培地を使用した。

生化学的性状の一致したものをラテックス凝集反応と病原大腸菌免疫血清を用いて同定検査を実施した。また、同時にベロ毒素産生能検査を実施した。

2 実施状況

図1 受検者数の年次推移

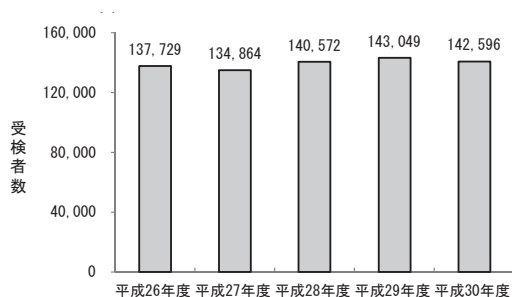


図2 陽性者・陽性率の年次推移
(サルモネラ属菌)

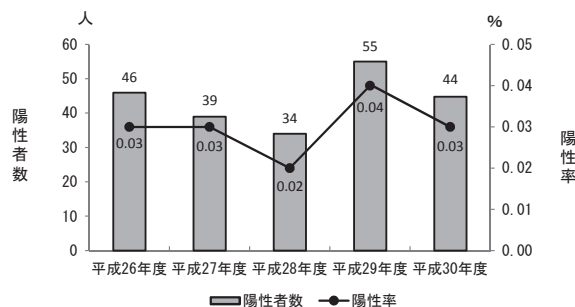


表1 赤痢菌、サルモネラ属菌 (チフス菌・パラチフスA菌を含む) 検査実施状況

	団体数	受検者数	陽性者数 (%)	赤痢菌	サルモネラ属菌群				
					O4	O7	O8	O13	不明
食品取扱者	1,323	92,428	27 (0.03)	0	6	9	10	2	0
学校給食従事者	459	50,168	17 (0.03)	0	9	6	1	1	0
総数	1,782	142,596	44 (0.03)	0	15	15	11	3	0

表2 腸管出血性大腸菌検査実施状況

		団体数	受検者数	陽性者数 (%)
O157	食品取扱者	1,232	59,937	0 (0.0)
	学校給食従事者	427	46,829	0 (0.0)
	計	1,659	106,766	0 (0.0)
O26	食品取扱者	62	6,386	0 (0.0)
	学校給食従事者	2	200	0 (0.0)
	計	64	6,586	0 (0.0)
O111	食品取扱者	62	6,386	0 (0.0)
	学校給食従事者	2	200	0 (0.0)
	計	64	6,586	0 (0.0)
O128	食品取扱者	2	381	0 (0.0)
	学校給食従事者	1	177	0 (0.0)
	計	3	558	0 (0.0)